

# 食べる喜びを支える歯科医療

## のための デンチャースペース義歯

【監修】加藤武彦(神奈川県開業)

【編集委員】三木逸郎(兵庫県開業) 糟谷政治(静岡県開業)

口腔の機能と審美の両立が患者さんを笑顔に!!  
診療室から訪問診療まで、  
デンチャースペース義歯の真髓がここに!!

2009年に出版し、大好評をいただいた増刊号『総義歯難症例への対応 その理論と実際 ニュートラルゾーン理論によるデンチャースペース義歯』を昨今の超高齢社会のニーズに合わせて書籍として大幅リニューアル! ニュートラルゾーン理論による周囲組織との調和のとれたデンチャースペース義歯や、認知症をはじめとした有病高齢者に対して歯科衛生士・言語聴覚士などとの連携で対応した症例などをとおして、人がよく噛んで食べることの意義を徹底解説しています。歯科界の未来に向けての羅針盤となる一冊。

【A4判・256頁・オールカラー 本体10,000円+税】



## CONTENTS

### 第I章 ニュートラルゾーン理論を用いたデンチャースペース義歯

プロローグ 変革が求められている総義歯臨床

1. 私はなぜ、この方法を採用ようになったのか
2. それを解決するために
3. 私が考えるニュートラルゾーン理論によるデンチャースペース義歯 他

### 第II章 機能にマッチした総義歯づくりとその理論

1. 機能する総義歯づくりの決め手とは
2. 初診時に患者の信頼を得るには
3. 機能にマッチした形態をイメージする
4. 誰でも同じようにするには 他

### 第III章 デンチャースペース義歯の作り方

1. デンチャースペース義歯製作のコンセプト
2. デンチャースペース義歯の製作

### 第IV章 デンチャースペース義歯を歯科技工で実現するために

1. デンチャースペース義歯と歯科技工士とのかわり
2. デンチャースペース義歯の理論を技工所へ採り入れて
3. 歯科技工サイドによるデンチャースペース義歯

### 第V章 顎堤条件の悪い症例の経過

1. 経年経過16、32、34年の症例から見えてくること
2. 「筋圧中立帯の理論」で機能回復を図った症例
3. 顎堤吸収の左右差が大きい症例と上顎シングルデンチャー症例

### 第VI章 総義歯臨床に必要な形態解剖学(生理的運動)

義歯床の形態と口腔周辺の解剖構造

### 第VII章 在宅診療における総義歯治療

1. 「食べるところまで診る往診」に必要な義歯製作理論のすすめ
2. 在宅訪問現場での義歯治療—リハビリの基本設定としての義歯
3. 訪問歯科診療から学んだ義歯治療
4. 私の第二の診療室『往診』
5. 言語聴覚士との連携
6. 歯科衛生士との連携

### 第VIII章 これからの未来を見据えて

人が生きていくうえでよく噛んで食べる(咀嚼)ことの意義

詳しい情報は  
こちら

